

横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。
例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

E6	E5	E4	E3	E2	E1	〈知的発達〉					
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な計算可					
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な文字・数字の理解可					
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な色・数の理解可					
A6	A5	A4	A3	A2	A1	簡単な言語理解可					
戸外歩行可						言語理解不可					
室内歩行可						〈特記事項〉					
室内移動可						C: 有意な眼瞼運動なし					
座位保持可						B: 盲					
寝返り可						D: 難聴					
寝返り不可						U: 両上肢機能全廃					
移動機能						TLS: 完全閉じ込め状態					

界)。マイケル・トマセロは、これが言語の基礎となると重視しています。自分と他者が区別され、自分と他者が外界にあるものに対し共通認識を持つようになる起点を、指さしの開始は示しています。重症心身障害で指を使えない人は、まなざしで物を指し示すはずで、この「まなざし指し」を職員は見逃してはなりません。このコミュニケーションが確立すれば、その人の精神世界は飛躍的に拡大していくはずで、以上、健常児の生まれてか



ら1年の間の重大な出来事を概括しました。しかし、重症心身障害では、これとは別に長年の経験から蓄積した精神世界もあるはずで、これを見逃さないようにする注意は怠ってはならないと考えます。

ひかりの子の 日常活動紹介 川上 恵



Aさん(3歳、横地分類A2)は、2歳のときに単独通園を始めました。2歳の頃は、保育者がすぐそばで声をかけると、にこやかな表情になり声を出していました。3歳になると、となりに保育者が来ると保育者の方に体を向けて手を伸ばし自ら触れるようになりました。動きを止めて保育者の声かけを聞いていました。声かけが聞こえなくなると、もう一度保育者に触れました。再び声をかけられると足をバタつかせて声をだす笑い声を出しました。保育者に声をかけ

られることを期待しているように思えました。

2歳頃の音遊びでは、とらで保育者がトントントンと一定のリズムで太鼓の音を出すと、にこやかな表情になつて手足を動かしました。音が止むと動きを止め、再びトントントンと音がすると手足を動かして喜びました。太鼓の音が面白かったようで音が聞こえるたびに手足を動かして喜びました。太鼓には手を伸ばしませんでした。一緒に叩いて音を出すと、自分の手で音が出ることに気付いたようでした。自分でも音を出すようになりましたが、手が太鼓から離れると探すことはありませんでした。3歳になり、太鼓の音がすると、音のしたほうに顔を向けたり体の向きを変えたりするようにになりました。繰り返し鳴らすと、音のする方に手を伸ばして探すように動かしました。手が太鼓に触れると、トントントンと叩いて音をだし、表情にもにこやかになりました。手を動かした時に楽器が手に触れないと、手を大きく動かしたり体の向きを変えたりして探す様子が見られました。2歳の頃よりも、もつと音を鳴らして遊びたい気持ちが強くなり感じられます。



絵本遊びでは、『ももんちゃんどすこーい』の語りかけが始まると動きをとめて、語り掛けに集中していました。「どすこーい」というところで、はっとしたような表情になりました。少し間をあけて「どすこーい」と語りかけると、にこやかな表情になりました。繰り返し返すと動きを止めて「どすこーい」「どっしーん」が出てくるのを期待するようになり、場面が変わると真剣な表情で聞いていましたが、最後に再び「どすこーい、どすこーい」と出てくると、にこやかな表情になりました。

